（別紙 10）

京都府におけるクマ類出没防止対策の実施に係る評価報告
（出没防止対策事業）

1　事業実施地域周辺の現状の出没・被害状況、出没防止対策の実施状況及び課題等

令和６年度の出没は令和７年２月末時点で 1,897 件となっており、昨年度を大きく上回る状況にあり、人身被害も１件発生している。 現状の対策としては錯誤捕獲個体の学習放獣に加え、一部の地域で不要果樹の伐採等の出没防止対策の啓発活動を実施している。

2　出没防止対策の具体的な内容

実施時期	令和７年４月１日～令和８年３月 31 日
場所	京都府全域
目的・目標	集落への再出没を防ぐことで人身被害の回避及び精神的被害を軽減し、人身被害０件を目標とする。
内容	シカ・イノシシ等を捕獲する目的で許可を取ったわな等による錯誤捕獲個体に対し、奥山への学習放獣を実施
方法	麻酔銃による不動化させ、捕獲地点付近の奥山に放獣
評価方法	継続したモニタリング調査により個体数推定を実施し、年度ごとに専門家会議で捕殺上限数等を定めた実施計画を策定する。
事業費とその算出方法	１，６７６，４００円 放獣作業の１回あたりの単価を積算し、算定
備考	

注１：事業前の計画では各項目について想定又は期待される内容を、事業終了後の評価報告では各項目に関する実績や結果を具体的に記入すること。出没防止対策が複数ある場合は、対策の種類毎に各項目を記載すること。

注２：実施主体が市町村の場合、各市町村の実施する具体的な内容を記述すること。

3　実施した出没防止対策の評価（事業終了後の評価報告時のみ）

速やかに麻酔により不動化処理を行い、個体の安全確保及び人身被害防止に配慮しつつ、適切な山林へ学習放獣を実施した。 事業実施後、実施地区内では人身被害は発生していない。

注１：当初予定されていたとおり事業が適切に実施されたか記載すること。

注２：事業実施地域ごとに、事業実施前後の被害指標（出没件数、被害件数、被害感等）を比較し、事業実施の効果が事業実施地域に現れているか評価すること（定量的な指標が難しければ、客観性を確保した定性的な指標を使用する。）。なお、事業効果の比較は同じ季節に行うことが望ましく、当該年度内での事業実施後の効果の確認が難しい場合は、次年度の実施とする旨記載すること。

注３：注１による効果検証を踏まえ、事業の設計（事業の質や内容）の妥当性や、事業の実施方法の適切性を評価し、課題と改善の方向性を記載すること。

4　その他

注１：出没防止対策の実施に当たって、特記すべき事項があれば記入すること。

注２：事業終了後の評価報告において、特記事項に対するコメントがあれば記入すること。